

人物の行動についての評価は、他人によって異なります。すばらしいものはすばらしく評価され、すばらしくないものはすばらしくないように評価されるのが一般的です。しかし、もう少し深く考えると、人々が評価する「価値」の基準が異なり、必ずしも客観的に評価されているとは限りません。

私は「価値を評価する基準」のレベルを次の4つのタイプに分類しています(六車流：流通理論)。

価値の評価基準のタイプ			比喩的事例
第1のタイプ	物理的な評価基準に基づく価値の認識	客観的	オリンピックの優勝者の評価
第2のタイプ	機能的な評価基準に基づく価値の認識	評価基準	ノーベル賞受賞者の評価
第3のタイプ	論理的な評価基準に基づく価値の認識	主観的	アインシュタインの相対性理論の評価
第4のタイプ	概念的な評価基準に基づく価値の認識	評価基準	ピカソの抽象画キュビズムの評価

#### 第1のタイプの物理的な評価基準に基づく価値の認識

1つの価値を認識するための評価基準として、物理的な評価基準があります。この評価基準は、いわゆる記録であり、誰もが視覚的かつ数値的に認識できる価値であり、1位とか2位とか3位などの順位で価値が決まります。いわゆるオリンピックの優勝者のような、客観的評価ができるタイプです。

#### 第2のタイプの機能的な評価基準に基づく価値の認識

1つの価値を、誰もが相対的に能力や技術などの成果を認識することであり、絶対的な客観性はありませんが、相対的な客観性を持つことにより認識される価値です。いわゆるノーベル賞受賞者のように、絶対的ではないが相対的に誰もが一応認める客観性を持った評価ができるタイプです。

#### 第3のタイプの理論的な評価基準に基づく価値の認識

1つの価値を、誰も視覚的及び行動的に解明できない分野で、論理的ではあるが論理の推測値で解明することによって認識する価値です。アインシュタインの相対性理論の宇宙の解明がそれに値します。すなわち、誰も行くことも見ることもできず、誰も真実はわからない宇宙を論理的に解明し、理論化することによって認識させる価値です。しかし、誰にもわかりませんが、宇宙の真の姿は実存しています。

#### 第4のタイプの概念的な評価基準に基づく価値の認識

1つの価値を、客観的ではなく主観的に、本当に正しいものがない分野で、個人が異質的な能力を持って展開することに対する認識価値です。ピカソの抽象画の評価がそれに値します。正しいものの客観的基準のない絵画社会で、キュビズム(抽象的なへんてこりんな絵)で世界一の画家としての評価を得たピカソの絵に関する概念を認め、価値化しました。絵画の社会は、宇宙のように真の姿は存在せず、主観的な概念の社会です。

このように、あらゆる分野で価値を認識するには、その分野分野で異なる評価基準があります。第1のタイプの物理的な評価基準と第2のタイプの機能的な評価基準は、客観性があり多数の人々が納得し理解できます。すなわち、オリンピックの優勝者は記録と順位という客観的評価基準によって「価値(金メダル)」が決定されます。また、ノーベル賞の受賞者は、研究と成果という客観的評価基準によって「価値(受賞)」が決定されます。

問題は、第3のタイプの理論的な評価基準と第4のタイプの概念的評価基準の、誰も客観的に評価する人が存在しない場合です。この場合には、第三者の卓越した理解度と能力が必要となります。第1のタイプと第2のタイプの場合は、不特定多数の評価で価値は創出されます。しかし、第3のタイプの理論的な評価基準に基づく価値の認識は、比喩論で言うと、誰も言ったことのない宇宙の姿であるアインシュタインの相対性理論を論理的に理解し、多くの人々に論理の正しさを教える少数の第三者の存在が必要です。また、第4のタイプの概念的な評価に基づく価値の認識は、比喩論で言うと、誰もがへんてこりんな絵と思うピカソのキュビズムの絵画技法を天才的技法であり卓越した絵であると認め、多くの人々に絵画技術の高さを伝える少数の第三者の存在が必要です。これらの、多くの人々に伝え、納得させ、高い評価を与えてくれる少数の第三者の存在が、価値の創造となります。この多くの人に伝え、納得させ、高い評価を与えてくれるようにする第三者を「偉大なる第三者」と呼びます。偉大なる第三者がいないと、変人は生まれても天才は生まれません。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>3</sup>

代表 六車秀之